

CSR/ESG レポート 2022-2023-2024

Key Figures of CSR/ESG 2022-2023-2024

評価項目		2022 as of Sept. 2022	2023 as of Sept. 2023	2024 as of Sept. 2024	評価・コメント
アルミ* 資源	アルミキャップの生産数	2 億 3,610 万個	2 億 3,150 万個	2 億 2,480 万個	* キャップの生産には、アルミのほかスチールやプラスチックも使用しますが、調達重量で一番多いアルミについての数値を記載しています。なお「原材料アルミ購入量は、過年度にさかのぼって修正しています。
	原材料アルミの購入量	647 ton	643 ton	615 ton	
	アルミスクラップ発生量 () 内は購入量に対する比率	純アルミ 118 ton (18.2%)	132 ton (20.5%)	133 ton (21.6%)	方形のアルミ板から円形のキャップを打ち抜き（プレス）するので、仮に工程不良がゼロでも、15～30%（品種による）のアルミスクラップが発生します。アルミスクラップはリサイクルされ、再びアルミ材となります。
		ブラ付きアルミ 37 ton (5.7%)	29 ton (4.5%)	21 ton (3.4%)	
	キャップ 1 個当たりの アルミスクラップ量	純アルミ 118ton / 2.361 億個 = 0.498 g	132ton / 2.315 億個 = 0.572 g	133ton / 2.248 億個 = 0.591 g	2023 年から「ブラ付きアルミスクラップ」からプラスチックを除去して、より有用性の高い「純アルミスクラップ」とする設備を導入しました。
		ブラ付きアルミ 37ton / 2.361 億個 = 0.156 g	29ton / 2.315 億個 = 0.127 g	21ton / 2.248 億個 = 0.089 g	
BPA*	BPA 不使用のポリエ ステル塗装の比率	アルミキャップ 89%	92%	95%	* BPA=ビスフェノール A、有害可能性が指摘され、各国で規制が始まっている物質 
		スチールキャップ 93%	95%	91%	
エネル ギー・ エミッ ション	電力使用量 (工場部門)	219. ⁴ 万 KW	223. ¹ 万 KW	234. ⁶ 万 KW うち、自社の太陽光発電 8. ⁷ 万 KW=3.7%	2024 年から本格的に、大阪工場・奈良工場で太陽光発電が稼働 
	CO ₂ 発生量 (工場部門)	(暫定) 796 ton *	(暫定) 843 ton *	(暫定) 860 ton *	* エネルギー使用量を中心に環境省の排出係数に基づき算定した値。今後、より包括的な算定方式を検討します。

評価項目		2022 as of Sept. 2022	2023 as of Sept. 2023	2024 as of Sept. 2024	評価・コメント
事務部門	紙の使用量 (A4 換算)	42. ⁵ 万枚	42. ⁹ 万枚	42. ³ 万枚	
人的要素	1 人 1 年当たり教育時間	13.5 時間 FSSC 取得準備のため、増加	7.6 時間 FSSC を取得したため関連の教育時間は減ったが、2019-20 に比べて増加	7.9 時間	
	1 人 1 月当たり残業時間	7.0 時間	7.4 時間	6.7 時間	
	1 人 1 月当り休暇取得日数	1.0 日	1.3 日	1.5 日	
お客様	顧客満足度（5 点満点）	平均 4.76 点 /65 社調査	平均 4.82 点 /65 社調査	平均 4.86 点 /65 社調査	
工場運営	国際基準取得状況	ISO9001 FSSC22000*	ISO9001 FSSC22000	ISO9001 FSSC22000	* FSSC22000 = 国際的な食品安全基準、2022 年 9 月に大阪工場と奈良工場で取得。 

(2024 年 12 月作成)

環境関連① <バイオマスプラ比率、10%→25%>

サケびん口キャップとしてご採用が増えている「AZK」（標準品）の外栓は2023年春から「バイオ樹脂10%含有品」に切り替えを行っていましたが、2024年5月からさらにバイオ比率を高めて、「バイオ樹脂25%含有品」に順次切り替えを行いました。

25%含有品として、新しいバイオスマーク認定品登録番号を取得しています。

また、「バイオ樹脂90%含有品」の受注も行っています。（成型主原料にはバイオ樹脂原料のみを使用しているため、従来は「バイオ樹脂100%」と表示していましたが、原料メーカーの保証するバイオ比率が完全な100%ではないことと、着色剤成分、樹脂切り替え時の微量混入などを勘案し、バイオスマークの認定基準に従って「90%」と表示することになりました。）

2023 年



AZK キャップの外栓

黒色（基本色）のAZKすべてを植物由来原料**10%**に切り替え

2024 年



AZK キャップの外栓

黒色（基本色）のAZKは植物由来原料**25%**に切り替え

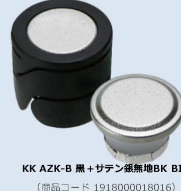
2024 年



AZK-BIO

バイオ樹脂90%*の「AZK-BIO」も指定ロゴで承ります

無地の **AZK-BIO** 汎用品を2種類準備しています



KK AZK-B 黒 + サテン銀無地BK BIO
(商品コード 1918000018016)



KK AZK-PT 黒 + 黒無地 BIO
(商品コード 1928000018113)

この商品は、AZKキャップの外栓に植物由来の原料を90%使用しています。

環境関連② <ワイドキャップの全量 BPANI 化>

お酒のキャップでは、KT+KS や PP キャップなどについては「BPANI 化」（BPA=ビスフェノール A の意図的添加のない仕様）への転換が進んでいましたが、カップ酒の「ワイドキャップ」については、コストの関係もあって、標準仕様には BPA 含有の塗料を使用していました。

塗料メーカーが BPA 含有塗料の生産停止としたこともあって、2024 年 3 月からワイドキャップの内面塗装・外面塗装を BPANI 仕様に変更しました。2024 年末には、原則的に当社の生産するワイドキャップはすべて、BPANI となりました。

（注）日本では酒類のキャップや包材について BPA の規制はありませんが、EU やアメリカなどでは酒類用を含む包材全般への BPA の使用を規制しています。

2024 年

KITA SANGYO

WQ WM BPANI*

*本資料で「BPANI」とは「意図的添加がない」という意味で使用しています。

WQとWM=カップ酒の広口キャップ（国内仕様）はBPAを含有した塗料が一般的でしたが、2024年3月から順次、すべてのWQとWMをBPANI仕様に変更します。ライナー素材は、もちろん「DOP**フリー」です。

* BPA=ビスフェノールA：キャップや缶のエポキシ系の内面塗装に用いられている。人体への影響が懸念され、規制する国や地域が増えつつある。

** DOP=フタル酸ジオクチル：最近ではDEHP=フタル酸ジエチルヘキシルと呼ばれることが多い。びん口に接するライナー部分の材質（PVC）の可塑剤として添加されていたが、すでにDOPフリー材質への切り替え済み。各種のフタル酸は人体への影響が懸念され、BPAと同じく規制する国や地域が増えつつある。

ISO 9001 ver. 2015 大阪・奈良・東京

FSSC 22000 大阪工場・奈良工場

wp lpa-free brochure 211025-241223/nk

きた産業の奈良工場では、全国多くのカップ酒ブランドのキャップを生産しています。小ロット対応をいたします。

CUP Saké

環境関連③ <自社太陽光発電の本格稼働>

奈良工場 C 棟屋根にパネル設置 (2023 年 10 月)



2023 年末に大阪工場・奈良工場にソーラーパネルを設置。大阪工場では 2023 年 11 月から、奈良工場では 2024 年 2 月から、発電を開始しました。

2024 年 9 月期の工場の電力使用量 234.6 万 KW のうち、8.7 万 KW (3.7%) を自社の太陽光発電で賄うことができました。

大阪工場
B 棟屋根にパネル設置
(2023 年 10 月)



社会貢献① <大阪事業所で毎週末の清掃活動>

毎週末、大阪本社事業所では就業時間内の15分程度を充てて、周辺道路や隣接公園（桃谷公園）の一部を、事務部門社員全員で清掃しています。

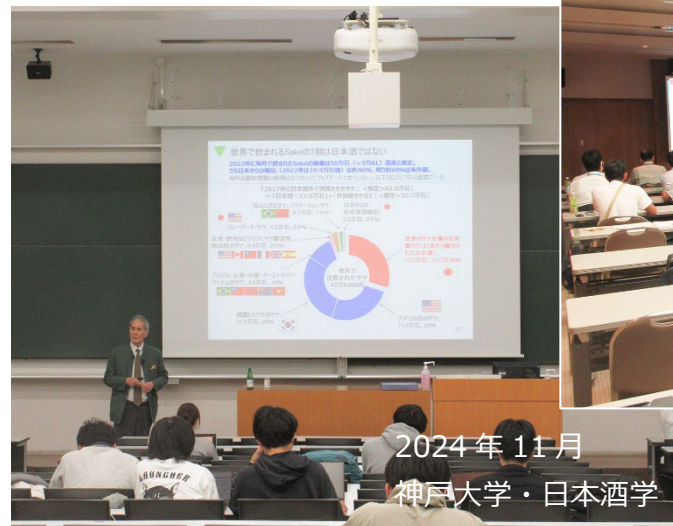
毎週末清掃は2005年ごろから20年近く継続しています。（写真は、2006年10月—当社ブログから—と、2024年1月の清掃活動の様子）



社会貢献② <酒類産業における講演>

当社は「酒類業界に貢献する企業」を目指しており、社外での講演や講師を積極的に引き受けています。

2024年は、神戸大学「日本酒学講座」、長野ワインアカデミー「スパークリングワイン」、九州酒造研究会「酒類産業の多様化、酒類産業の法則性」などの実績がありあました。



社会貢献③ <社会福祉法人への寄付>

若干の金額ではありますが、継続的に「日本赤十字」への寄付を行っています。また、本年は「あしなが育英会」に対しても寄付をしました。

（2024年12月作成）